

# どの子にも チャンスを



岡崎市教育委員会 委員

土屋 武志 氏

教育随想



平成23年4月1日

## 4月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想 .....	1
岡崎市教育委員会委員 土屋 武志氏	
この人に聞く .....	2
岡崎市PTAコーラス連盟顧問 柏木 典子氏	
羅針盤 .....	2
東海中学校長 坂井 節	
ふれあい .....	3
連尺小 小田 幸子	
特集 .....	4
平成23年度 岡崎の学校教育	
お知らせ .....	6
フォト・ヒストリー ...	8
手具を使った業前運動 (昭和62年)	
この本を .....	8

先日、岡崎出身の柴田知佐さんの講演を聴く機会があった。現在、立命館大学大学院生の知佐さんは、小学五年生のときから「地雷廃絶」活動に取り組んでいる。彼女の活動はマスコミでも取り上げられ、中学生のときにはカンボジアを取材旅行するなど、地雷廃絶を訴える活動を続けている。

講演の後、十年以上にわたって活動を続けられた理由を問われ、知佐さんは、自分の場合「最初にその問題を通じて衝撃と感動を覚えたこと」「その問題に立ち向かう人に出会い、ああいうふうになりたいと憧れる人がいたこと」「周りの人の支えがあったこと」の三つがあったと答えていた。

彼女がこの問題に最初に出会ったのは、総合学習の時間だった。教師が見せた長野オリンピック開会式の

ビデオ。そこには、地雷で義足となった聖火ランナーのクリス・ムーン氏が映っていた。

私たちが一つの問題を追究し、活動を継続していくことができるのは、疑問に思う問題に出会い、それに立ち向かっている人がいることに気づき、そして周囲とつながる場合なのだ。一人では続かないのである。

彼女は、友だちとともに活動する中で、地雷問題への関心と理解をいっそう深め、活動の輪を拡げていった。私は小学生時代の彼女たちが募金活動に取り組む姿を覚えている。中学・高校の教師たちも彼女の活動を理解し、支援したので、彼女はさらに成長した。

子供が成長するのは、感動と憧れと支えがあるときなのである。教師はどの子にもそのチャンスを与えることができる。岡崎の教育がこれか

らも大切にしたいことはこのような取り組みではないだろうか。  
(つちやたけし)



## この人に聞く



## 困難を楽しみながら

岡崎市PTAコーラス連盟顧問  
柏木 典子 氏

「大学を選ぶとき、好きだった国文学にいこうか、音楽にいこうか迷ったのです。そのときに、言葉に音楽がつくと表現が深くなるというか、心にぐっとくるということに気付いて、言葉のある音楽、声楽という道に進もうと決意しました。」

「言葉ですね。今もこだわりがあったり、リサイタルをするときには、日本語の歌しか歌わないんです。魂の入った言葉を生かしたものを選んで歌います。」

声楽家としてはもちろん、大学の非常勤講師として、また小中学校への合唱指導や個人レッスンなどの講師として、言葉で何かを伝える機会が多い。



「十年前、主人をガンで亡くしたのですが、親族で相談をして余命を知らせなかったのです。そうしたら娘に、私が一生頑張れる言葉を、お父さんから欲しかったと言われました。それが教訓となって、その人が今いちばん欲しい言葉は何かを考えて、言葉を探そうにしています。」

その娘さんは今、「お母さんのようになりたい」といって声楽家の道を目指している。

「大好きな音楽で何か役に立てないかと考え、息子が中学校に通っているとき、お母さんたちの交流の場になれば、とPTAコーラスを立ち上げたのです。」

それが縁で、今では岡崎市PTAコーラスの顧問として、お母さんたちの活動を支えている。

「いつも、お母さんは明るく輝いていてくださいと言っています。子供が帰ってきたら、お母さんとしての仕事がたくさんありますからね。だから、そこで頑張れるエネルギーを、ここでつくりましょうと言っています。『お母さん、今日歌ってきたでしょう。顔を見ると分かるよ』と、子供に言われたという方がいて、すごく嬉しく思いました。」

体の内から出てくる、突き動かされるような表現をしようと、ふりをつけて合唱することもあった。

「お母さんたちは、歌っているとすごく気持ちが晴れる、楽しいと言ってくれます。表現力が豊かになってくると、自分の中にあつた何かに気付くことがあるようで、自分もこうすると輝く瞬間があるというのをつかんではしいと思っています。」

仕事をもち、昼間、自由な時間をもてないお母さんが多くなつた。

「少し前までは、二十七もの学校にPTAコーラスがあつたのですが、だいぶ減つてしまいました。お母さんからたくさん費用はとれないので、学校で無料で練習したり、ピアノを借りたりできるのはありがたいことです。合唱団の指導者はボランティアで教えているのが現状です。」

岡崎市PTAコーラス連盟合唱団では、最近「おかざきの心の歌」夢受け継いで」に取り組んでいる。

「岡崎市の人が全員愛せるような身近な言葉、すてきな言葉、どんな年齢層の人も、ぐっとくる言葉が散りばめられていて、奥行きを感じる歌ですね。ふつと入ってきて抜けていけない、心の奥にとどまる歌だと思えます。親子で一緒に大合唱できる機会があるとすてきですね。」

これからの夢を語る顔はとても輝いていた。

氏名 かしわぎ のりこ  
住所 岡崎市康生通東  
岡崎音楽家協会副代表



## 子供の目線に立つ姿勢

東海中 校長

坂井 節

「教育は子供の幸せのためにある」「子供にとつて最大の教育環境は教師自身である」この二つは、毎年四月の最初の職員会で職員に話す言葉である。

私たち教師は、多くの場合、大学を卒業してすぐに教壇に立ち、子供からも保護者からも地域の方々からも「先生」と呼ばれる存在になり、いつのまにかその言葉に甘んじ、權威、権力を獲得したかのような錯覚に陥りやすい。そうならないように教師としての存在意義、教師とは何かを問い直すための指針として提示している。

「教育は子供の幸せのためにある」

この言葉は、教育の究極の目的である。目の前の子供一人一人を幸せにするためには、日ごろの言動をど



## 小さなドラマ

連尺小 小田 幸子

「もう、レク、やめだつてよ。」

子供たちがもめながら教室に入ってきた。もうすぐチャイムが鳴ろうとしているのに、教室のざわつきはおさまらない。

クラスでは、係が中心となって、週一回程度、長放課にレクリエーションを行っている。ドッジボールや鬼ごっこなどを通して、クラスの親睦を深めることが目的だ。ところが、四月以来、わがクラスにとつては、このレクリエーションがもめるものになっていった。五月も残り少なくなつたこの日、積もり積もつた不満が一気に噴き出した。

「あんなにやりたがつていたのにどうしてやめるの。」

「だって、みんなは勝手だし、レクはもうやらないって言つてる子はい

るし……。」

わがクラスの子供たちは、いつも明るく素直、そして何より元気だ。放課になると一目散に運動場に駆け出していく。だから、レク係は、クラスにとつて、なくてはならない係だ。ところがいざレクとなると、うまくいくときばかりではない。真剣にやるあまりに感情的になつてしまつたり、自分勝手なやり方をしてしまつたりすることがあつた。

そこで、レクリエーションについて考えるいい機会と考え、話し合いの場をもつた。一人一人が思いを存分に出し合うよい機会になるにちがいない。

係からは、「ルールを無視する」「やり方に文句を言つてくる」「指示を聞いてくれない」など、係としての思いが語られた。それに対し、周りの子からは、「ルールが難しすぎる」「もっとしつかり説明してほしい」「係が勝手に進める」と、違う立場からの意見が出された。しばらく話は平行線をたどり、時間ばかりが過ぎていった。

「こんなふうならもうやめなさい。」  
 ここが転機だと感じ、最後通告を出した。教室の空気は揺れ始めた。——レクはやりたい、でもやることもめ。先生も明らかに怒っている。ど

うしたらいいんだ。なんとかしないと——。子供たちの表情に焦りの色が見え始めたときだ。

「もっとみんながやりやすいようにレクを考えれば、もめなかつたと思う。」

クラスの空気を一変させた一言だつた。

子供たちの毎日には、小さなドラマがたくさんある。大人にとつては小さなことでも、子供たちは必ずそこから何かを得て、着実に成長していく。そして、その瞬間を共有できることは、教師として何よりもうれしいことだ。

レクはそれから、山あり谷ありを繰り返しながら、一年間続いた。

桜の花が咲き誇り、新しい季節がやってきた。最高学年になった子供たちは、これまで以上に張り切つた、頼もしい顔を見せている。



うしたらいいのか。そこに自ずと子供たちに対する答えが潜在している。私たち教師が戒めなければならぬのは、子供を上からの目線で見ることである。子供の人格を尊重し、子供の目線に立った姿勢が大切である。同時に大切にしなければならぬのは子供との対話である。子供の心に響く誠実な対話を心がけていかなければならない。

子供の心に響く対話ができるためには、教師自身が常に心を磨いていかなければならない。子供のよりよい人格を形成するのに関与するのが私たち教師である。だから、私たち教師は「子供にとつて最大の教育環境」になるのである。「体曲がれば影斜めなり」教師と子供は、この体と影の存在ともいえる。体としての教師の心が未成熟であれば、影である子供の心も発達しない。

子供の幸せのためには、私たち教師は、常に子供の潜在的な力を信じ、伸ばしていく努力が必要である。あの国の指導者は、青年をどう伸ばしていくかの問いに「青年を尊重すること」「青年から学ぼうとすること」をあげている。「子供とともに歩み、子供とともに学ぶ」姿勢を私たち教師は、貫いていくことが要諦である。



# 平成23年度 岡崎の学校教育

▲ 確かな学力（英語活動）—本宿小—

## 本年度の岡崎の教育

百年に一度の経済危機に続き、未曾有の大震災と津波に追い打ちをかける形で、原子力発電所事故が発生した。日本社会は、大きな変化を余儀なくされている。このような中、幼稚園教育要領に続き、本年度から小学校の学習指導要領が全面实施され、来年度は、中学校の学習指導要領の全面实施を控えている。

知識基盤社会において、生きる力を育むという理念はますます重要となり、学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスが重視されている。

そこで本市は、本年度も、「確かな学力」「やさしい心」「健やかな体」を育む教育の推進を指導の重点に掲げ、生涯にわたって心豊かで力強く生きぬくための基盤となる能力を育成すること、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図っていくことを使命として、未来を見据えた豊かな学びを構築していきたい。

さらに、学習指導要領には、ESD（持続発展教育）の理念が提唱された。世界が大きな転換期を迎え、環境・経済・社会のすべての分野で深刻で複雑な問題が発生していることがある。こうした諸問題をどのように解決していくのか、社会がどこに進むべきかという問いに対する答

えが「持続可能な社会」であり、その実現に向けての取り組みがESDである。本市では、昨年度よりESDにも積極的に取り組んでおり、本年度、さらに充実・発展させたい。

### 一 ESDの推進

持続可能な社会とはどのようなものかを考え、そこに向かおうとする子供。持続可能な社会をつくるために、解決が必要となる課題を把握し、その解決のために具体的に行動していく子供。ESDでは、そういった持続可能な社会の担い手を育てていくのである。

本市では、これまでおこなってきた教育について、ESDの目標に照らして見直し、「環境教育」「英語教育」「岡崎の心の醸成」の「三本柱」を立てる必要があると考え実践を始めている。

### 二 岡崎の教育三本柱とESD

#### ① 英語教育の充実

学習指導要領では、小学校の五・六年で外国語活動が始まった。しかし、本市は、文部科学省より「教育課程特例校」の指定を受け、昨年度、小学校の全学年に、「英語活動」を新設し、小中一貫した九年間の「英語活動カリキュラム」を実践している。小学校では、自作DVD教材（Okazaki Kid's English）を活用して聞く力を伸ばしている。本年度は、中学校の自作テキスト教材（わたしたちのOKAZAKI）を作成し、話す

▶ 健やかな体―甲山中―



▶ やさしい心―細川小―



**学校教育の視点**

学校教育に求められているのは、児童生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成すること、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各園・学校においては、基礎的・基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、幼児児童生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。

そのために園・学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が自他を敬愛し、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある園・学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全園・全校一一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と園・学校とが協働して信頼される教育の創造に努める。

**指導の重点**

- 一 学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
- 一 命の大切さを自覚し、他を思いやる「やさしい心」を育む教育の推進
- 一 自らを律し、たくましく生きる「健やかな体」を育む教育の推進

力を伸ばす。中学校卒業時には、自分のこと、岡崎のこと、日本のことを、英語で世界に発信できる子供を目指す。そして、身近な地域だけではなく、国内や海外とのつながりを図りながら、多様な立場や世代の人々とかかわり、持続可能な社会を担う子供たちを育む。

**② 環境教育の充実**

昨年度から市内の全小中学校では、本市が独自に作成した「岡崎市環境学習プログラム」を実施している。義務教育九年間を通して教育課程を系統的に組み立て、一貫した学習をおこなう全国的にも例のない取組である。地球温暖化や環境破壊など自分の問題として考え、歯止めをかけるために主体的に実践できるようにし、共存・協力を基礎とした持続可能な社会づくりを担う子供たちを育む。本年度は、岡崎市環境学習プログラムの実施による課題を把握し、よりよいプログラム・授業づくりへの調査研究もおこなう。

**③ 岡崎の心の醸成**

岡崎にかかわる人・もの・ことを教材や題材として学習し、岡崎への愛着や誇りといった思いを高め、その学びから岡崎の心を醸成する。持続可能な社会づくりには、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々との共存が求められる。グローバル化の中で、文化や思いの違いを認め合うだけでなく、日本の文化や日本

の心を伝える子供たちを育む。さらには、持続可能な社会をリードするのにふさわしい心を、郷土の偉人の姿から学ぶのである。

**三 本年度の岡崎市ESDの重点課題**

① これまでのカリキュラムや教育内容をESDの視点でとらえ直す。

本市のESDは、その中心的な課題とされる環境教育や国際教育だけを取り上げるのではない。持続可能な社会をつくる環境・経済・社会・文化の各側面から、総合的に取り組んでいく。本年度は、ESDの目標を視点として、これまでおこなってきた教育を見直し再構成し、それぞれの教育活動を関連させていく。前述の岡崎の教育三本柱の学習と教科・領域の学習、行事との関連を強め、ESDとしての岡崎の教育を展開する。

② 自然の中での活動、職場体験など様々な体験活動を促す。

他人や社会、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」、「つながり」を尊重できる個人を育むためにも、自然の中での活動、職場体験など、様々な体験活動を積極的に進めていく。知識を得ることが目的ではなく、自分たちの暮らしや社会の課題に向き合って、よりよい生き方や社会にするためにはどうしたらよいのか、体験活動を通して、自律的に学び合い、既成の価値や枠組みにとらわれず、新しい価値を創造していく教育を進めていく。



● 教育最新情報

○ニュートンのリンゴの木  
二月二十五日(金)、各中学校で「ニュートンのリンゴの木」植樹式が行われた。

岡崎市全中学校で、卒業記念の行事として行われた。ニュートンのリンゴの木は、五年後実をつける予定である。卒業生が二十歳になったとき、卒業時、ニュートンのリンゴの木の前で抱いた夢や思いを振り返ってほしいと思う。



▲ 亀海中での植樹式



▲ 添え木がついたリンゴの木

また、各中学校で植樹されたニュートンのリンゴの木は、専門業者によって添え木がつけられた。

各学校で、科学への夢や興味を高められるよう、在校生による世話も進めたい。

○小学校での新学習指導要領  
全面实施

今年度より、小学校では、移行措置期間を終え、新学習指導要領が全面实施される。新学習指導要領の下で教科書

も新しくなり、授業が本格的に始まる。

現職研修委員会の各部会を中心にこれまで進めてきた研修の成果を生かし、各学校でしっかりと授業を進めたい。

授業改善委員会が調査研究を進め作成したこれまでの資料、平成二十二年度に作成した小学校年間指導計画の活用を図っていききたい。

○全国学力・学習状況調査

昨年度から変更された抽出と希望利用を併用する形式は変更はなく、今年も市内の小中学校が参加を予定している。

しかし、今年度、四月十九日(火)に実施される予定だったが、東日本大震災により、一学期中は行わないこととなった。九月以降、実施するかを含め検討される予定である。

● 教育関係機関だより

○教育研究所

☎二三一〇四一六

教育研究所は、中核市岡崎への研修権の委譲以来、教育関係の「研修」「研究」の拠点となっている。

就学相談、不登校等の相談機能を教育相談センターに移し、研修の拠点として充実した活動が展開されている。

今年度八月、総合学習センターが、上地の旧勤労福祉会館にオープンする。オープンすると、教育研究所の機能が移転される。社会教育も含め、岡崎市の教育にかかわる活動の中心となる。

初任者研修、管理職研修、教員免許状更新講習、各教科領域の主任会や研究活動、岡崎市の特別委員会の活動等の拠点となる。

○教育相談センター  
☎二二一三二〇七  
教育相談センターは、就学・不登校等の相談活動の拠点である。「そよかぜ相談」として、登校支援員、臨床心理士が、新入学児の就学相談、発達障がいのある子供の相談、不登校や心の悩みの相談を行っている。

また、ハートピア岡崎がセンター内にあり、不登校で悩む子供や保護者に対して、教育相談や学校訪問、家庭訪問

等を通して学校生活への適応を高め、学校復帰できるように支援している。

就学が適切に行われるように、そして、不登校を増やさないよう、学校と連携を取りながら早期の対応をしていく。

○少年自然の家

☎二三一〇四一六

少年自然の家は、豊かな自然の中で野外・宿泊活動、自然探究等の体験活動を通して、心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的とした教育施設である。

昨年度も、市内小中学校を中心に、主催行事、市内外の諸団体の利用が行われた。

昨年度夏休みに研修室や事務室などの外壁塗装を行い、リニューアル工事が終了した。

● 表彰

◆第20回愛知県ユース(U-14)

サッカー選手権大会

準優勝 竜海中学校

◆第22回読書感想画中央コン

クール(全国)

小学校低学年の部

優良賞 城南小三年 山田磨怜

◆第56回青少年読書感想文全

国コンクール

課題図書の一部

入選 矢作東小二年 島田 樹

◆県福祉体験作文コンクール

小学校高学年の部

入選 根石小五年 丹羽うらら

◆第22回読書感想文愛知県コンクール

優秀賞 美合小一年 新谷 亮太

優良賞 美合小一年 安藤帆七海

佳作 根石小三年 近藤 日向

◆平成22年度愛知県アンサンブルコンテスト

サクソフォン四重奏

金賞 竜海中学校

クラリネット八重奏

金賞 竜海中学校

金管八重奏

金賞 竜海中学校

●期待の新任教員

平成二十三年度岡崎市小中学校新規採用教員は、一〇一名(事務職員・栄養教諭を含む)である。

なお、新任教員の配置は次のとおりである。

○小学校

梅園小 西尾 修一

島津あやの

根石小 杉本麻美子

男川小 岡田 和也

美合小 三浦 良見

緑丘小 高橋あゆみ

羽根小 岡本 祐輝

梅田 政希

伊藤英理奈

岡崎小 小林 怜司

六名小 中根 彩

水野 利明

大島 裕子

丸尾 健太

三島小 丸尾 健太

竜美丘小 吉村康次郎

三浦 優

柴田 貴巳

寄田 彩日

丸山 莉菜

西川はるか

鈴木 慶輝

大島 朱里

泉 優子

小林さくら

生平小 小川 恭平

秦梨小 国分 貴寛

常磐小 榊原由里香

恵田小 中根 有理

奥殿小 石垣 沙也

細川小 天野 充

深津 智未

岩津小 柵木 舞

大樹寺小 志賀 沙織

大門小 辻本 健太

三浦 良見

高橋あゆみ

矢作東小 加藤 祐美

石川 伸一

伊藤 禎浩

矢作北小 岩田 恵子

竹内梨恵子

山下 美紗

赤堀 大和

七里 綾乃

岡 香実

西山 友基

近藤 美樹

太田 信

森 正孝

山本 惇基

上地小 山本 惇基

丸山 莉菜

平岩佐知子

河合 祥峰

右左美裕一

鈴木 結菜

内田 敏明

安藤 朗広

武藤 良子

小林 健

加藤 健太

鴨下 敦

青田 彩奈

美川中 鈴木 真登

志賀 沙織

辻本 健太

森 万太郎

加藤 祐美

石川 伸一

伊藤 禎浩

岩田 恵子

山下 美紗

赤堀 大和

七里 綾乃

岡 香実

西山 友基

近藤 美樹

太田 信

森 正孝

山本 惇基

上地小 山本 惇基

丸山 莉菜

平岩佐知子

河合 祥峰

右左美裕一

鈴木 結菜

内田 敏明

安藤 朗広

武藤 良子

小林 健

加藤 健太

鴨下 敦

青田 彩奈

六ツ美北中 河合 巧

久納 大佳

井村 友美

福田 七月

成瀬 拓磨

河合 智子

杉田かざみ

角田 裕美

松井 昭憲

立石安祐美

山本真梨子

成瀬 真浩

加藤 秀太

青山 秀彦

初山 千恵

坂元優美子

太田 周作

伊藤 達也

篠原 有加

金森 慎也

佐藤あかね

山田 恵美

河澄 祥代

山崎 綾香

中山 広見

杉浦 康修

矢沢 敬介

鈴木小百合

生駒 大典

倉田 舞

◆新任栄養教諭

福岡小 野澤 知代

岩津中 中川麻知世

●期待の新任事務職員

竜美丘小 中村こずえ

井田小 高田絵里子

夏山小 小林友太郎

甲山中 白井 亨奈

南中 福井 晶琴

●平成二十三年岡教組執行委員

執行委員長 荒川 昌吾

執行副委員長 成田 隆行

書記長 稲垣 祐嗣

書記次長 安部 朋彦

組織部長 河合 泰宏

教文部長 神谷 敦仁

福対部長 吉川久美子

調査部長 鈴木 善博

青年部長 檀浦 啓造

女性部長 鈴木紀子子

会計委員 廣瀬 浩司

委員・常任

執行委員 山元 嘉与

青年部常任 高橋 遼

・タイトルバック  
・カ ッ ト  
大 門 小 山 中 武 子

# 手具を使った業前運動 (昭和62年)

写真提供：小豆坂小学校

写真は、十五分間の業前運動の時間に、児童が棒（手具）を使って柔軟運動をしている様子を撮影したものである。当時、本校では毎朝、楽しみながら柔軟性を高める方法として、棒やリングを使った運動とエアロビクスを全校で行っていた。この取組の成果は翌年、学校体育研究の全国大会で発表された。当時の岡崎市には、年間を通じて朝の時間を利用し、かけ足や縄跳びなどを継続的に実施する小学校が数多くあった。今も、学校の実態に応じて体力づくりの取組が続けられている。人づくりの大切な要素として、体力づくりを重視する姿勢は変わらないのである。継続的な業前運動は、体育の授業に有効に作用し、本校児童の体力向上と健康増進に大きな効果を上げていた。



重い病気の母さんくじらを、漁師から守ろうとする子くじらだが、ついに……。絵本「くじらのなみだ」の朗読と歌。音に言霊をのせた柏木先生の歌に会場はひき込まれていく。音楽は瞬間の芸術と言われる。歌は絵画のように形として残るものではないが、聴く者の心に熱い何かを残す。

## シオ スア

新学習指導要領が、小学校でいよいよ完全実施される。「生きる力」を育むという基本理念は引き継がれ、子供たちの主体的な学びが求められている。「脱ゆとり」が叫ばれ、授業内容と時間数が増えた。しかし、子供たちを受け止める心のゆとりは、失わないようにしたい。

新しい一年の始まり。担任の先生はだれだろう。クラスにはどんな子がいるのかな。友達ができるだろうか。勉強は難しくなるのかな。期待と不安が入り混じる。緊張の瞬間、担任の笑顔と第一声に、不安は消え去り、期待が倍増する。そんな出会いをつくりたい。

# この本を

- \*はやぶさ、そうまでしてきみは 川口淳一郎 ￥1,000 宝島社
  - \*これからの「正義」の話をしよう マイケル・サンデル ￥2,300 早川書房
  - \*くじけないで 柴田 トヨ ￥900 飛鳥新社
  - \*シンプルリスト ドミニック・ローホー ￥1,260 講談社
  - \*男の生き方 川北 義則 ￥1,365 PHP 研究所
- メディアや政治家に、「閉塞感<sup>そく</sup>」であるとか「元気のない日本」という言葉をこれほどまでに連呼される昨今。憂国の念に駆られるのは、自分だけではないと思う。そして、この苦々しき現状を生み出した根源には、「公より私を重んじる風潮」の拡大があるのではという思いに辿りつく。このことについて著者は、「義」を重んじるサムライ精神の喪失に着目し、日本人のDNAに刻み込まれている本当の意味でのサムライ精神の覚醒を訴える。そして、「人としての品格」と「自分の美学」の大切さを説く。これら日本人ならではの誇るべき美点の再認識に、活路を見出したい。 大樹寺小 天野 道晴